

課題

【英語】自分の考えやその理由を書くことが苦手

手立て

コミュニケーションにおける目的・場面・状況の設定と多様な表現の理解

POINT① 目的・場面・状況設定の明確化

POINT② コミュニケーションにおける背景理解

POINT③ 書くこと・話すことにおける多様な伝え方の理解

具体例

POINT① 目的・場面・状況設定の明確化

○自分自身を表現する機会をつくりだす

- 特定の言語材料を使って表現することを主の目的にするのではなく、学習した言語材料を使って表現したり、理解したりする目的・場面・状況を明確に設定することで、実際に近いコミュニケーションを生み出すことができる。そして、それが学習意欲につながることを期待できる。

(例) 現在完了が言語材料の単元

×現在完了(経験)を使って英作文を書かせる活動
○ALTへおすめの場所紹介する活動

冬休みに日本国内で旅行をしたい！
行ったことがない所に行ってみたい。
日本の文化を体感したい！

私は〇〇へ行ったときに、
そこで□□をつくったこと
が思い出し、
それを伝えてみよう。

×現在完了(継続)を使って英作文を書かせる活動
○外国人の転校生へ助言する活動

どんな部活動があるのだろう。
みんなはどんな習い事している
のだろう。

ぼくは2年間卓球部に
所属しているから、
薦めてみよう。
小2のときから
ピアノを習っている
ことも伝えてみよう。

POINT② コミュニケーションにおける背景理解

○言語文化や慣習に基づく適切な表現を学ばせる

- 実際に近いコミュニケーションを生み出すためには、その国の言語文化を理解する必要がある。指導者がこれらを理解し、伝えていくことで学びに深まりが生まれる。
- 右の例は、日本語(文化)に基づく解釈をすると、混乱が生じる可能性があることを示している。

(例) 否定疑問文への返答

外国の友人

日本人の私

Do you like dancing?
「きみ、踊るの好き？」

No, I don't.
「いや、好きじゃありません。」

Really?
Don't you like dancing?
「本当に？
好きじゃないの？」

Yes, I do. ✗
「うん、好きです。」

No, I don't. ○
「うん、好きじゃないです。」

POINT③ 書くこと・話すことにおける多様な伝え方の理解

○場面に応じた適切な表現を学ばせる

- 同じテーマや、同じ内容を表現するのでも、手段(やり取り・発表・書く)や場面(フォーマルな場・カジュアルな場)、目的(交流や面接など)によって伝え方は変わってくる。これらを理解することによって、多様な表現を習得することができるようになる。

(例) 中学校での思い出を伝える

